

聖化

2006.9.15

日本聖化交友会機関誌

No. 40



「更なる一致、結集を願って」

日本聖化交友会会長・関東聖化交友会会長
ウエスレアン・ホーリネス教団浅草橋教会牧師

黒木安信

「あなたのあかしは、まことにたしかです。聖なることがあなたの家にはふさわしいのです。主よ、いつまでも。」(詩篇93・5)

いま手元にあるJHA機関紙「聖化」の第1号からいくつかを読み返してみました。聖化に対する、先達の熱き思いが伝わってきます。その第10号までの巻頭を執筆された諸師のうち、7名の先生方はすでに御許にあられます。時の流れの重さを、改めて思わされることです。

第3号に、「私見 日本聖化交友会の展望」と題して竿代忠一師が、その協力関係の深まりを切望しておられます。

基本として聖書のホーリネスとその協力的宣証の重要性を踏まえつつ、(いつの日にか、聖会―広報―出版―神学―神学校―宣教―信徒活

動等の各部門を持つ日本聖化連盟への発展を期待できないであろうか)と、日本のホーリネス陣営の力強い結集を訴えておられます。

JHA発足から緊密な協力関係にある「福音文書刊行会」は、来年50周年を迎えようとしています。また、関西の「ジョン・ウエスレーに学ぶ会」は、今年25年を迎えられました。JHAも早や20年を過ぎました。日本における聖書の聖化の更なる深化と豊かな広がり、そしてホーリネスに根ざした強力な宣教を願って、今こそホーリネスに生きる者たちの一致と結集が求められているのではないのでしょうか。

現状を瞥見しますとき、人的・時間的・経済的、等々の重複が続いています。海外から来られたある先生は、(日本の先生たちは休まない、という

罪を犯しています)と笑いながら話されました。

牧師が自らを立て直していく月曜日が、委員会などで非力化されてはなりません。初代の聖徒たちのように、「神のことはをあと回しにして」はならないことは言うまでもありません。しかし、そういう犠牲が黙々と担われつつ、様々な働きがなされて来たことも事実です。

「聖なることがあなたの家にはふさわしい」との聖霊の促しに傾聴し、この素晴らしい聖化の恵みが、次代の若人にも生き生きと体験され、宣証され、わが国の福音宣教がより一層、推進されてほしいものです。

そしてまた、アジアや世界各地のホーリネス・ピープルとの豊かで麗しい交流が展開されることを祈らずにおれません。

会発足の経緯

チャペル牧師 伊藤昭吉

日本聖化交友会の発端

日本聖化交友会は現在、関東地区を含め札幌、宮城、山形、栃木、東海、大阪、岡山、九州の九つの地区で聖化大会を開催して聖化の宣証に取り組んでおります。そもそも聖化大会はどのような経緯から現在に至ったのでしょうか。日本聖化交友会が発足したのは今から二十一年前の一九八五年十二月二日です。

今は亡き長島幸雄先生は長い間ホーリネスの恩寵に立つ者たちが教派の垣根を越えて一つになろうかと夢見ていました。それを事あるごとに盟友の本田弘慈先生に語り、何とか実現の道筋を求めていました。神様はお二人の先生方の祈りに道を開いてくださり、全国のホーリネスを信する団体の先生方以上にそのような趣意書を回し、最初の会合を御茶の水クリスチャンセンターで持ったのが一九八五年十二月二日でした。当日の出席者は日本の聖潔派を代表する主だった先生方が全国から集まり、長島幸雄先生の「日本には多くの超教派の働きはあるがホーリネスを宣証する働きがない。是非これの実現に一緒に取り組んで欲しい。」という熱心な訴えに出席者一同聖霊の促しによって賛同するところと

なり、ここに日本聖化交友会の結成の運びとなったのでした。

続いて詳細の討議に入り、この働きの性格を組織体ではなく、ホーリネスの宣証を主軸とする運動体と定め、参加者資格を教派単位の加盟ではなく、ホーリネスを信する個人、各個教会、各教派、各種団体としました。次に規則について検討され、名称、事務所、目的、信仰基準、活動、会員等が定められました。目的には「本会は聖書的聖化の信仰の宣証、究明、普及を：目的とする」と謳い、信仰基準には「本会は神の恩寵のもとに、信仰と全き献身によるキリスト者の第二の転機としての全的聖化を告白する。それはキリストの血と聖霊のバプテスマによるすべての罪からの瞬時的な潔め、全き愛であり、さらに聖霊のご支配のもと、きよめの生涯を通じてキリストのみかたちまで成長することである」と定めました。具体的な活動内容としては上記目的の達成のために「聖会、研修会の開催、出版その他の活動を行う」といたしました。初代会長に本田弘慈先生、副会長に岸田馨先生が選出されて閉会となりました。私は長島幸雄先生が帰路につくために羽田空港に向かう途中まで一緒に送らせて頂いたのですが、先生は

「長年の夢が実現してほっとしています。これで思い残すことはない。」とおっしゃって晴れ晴れとしたお顔をなさったことを印象深く覚えております。長島幸雄先生の訃報に接したのはそれからしばらくしてからのことでした。

日本聖化交友会の経過

日本聖化交友会が主催する最初の聖化大会が開催されたのは翌年の一九八六年十一月十三日、十四日でした。主講師にJ・オスワルド博士を迎えて「実践的ホーリネスを求めて」のスローガンのもとに素晴らしい聖会になりました。日本聖化交友会発足前から福音文書刊行会(EPA)は聖会を行っていましたが、EPAは今後本の出版に専念して聖会は行わず日本聖化交友会の開催する聖化大会に全面的に協力する形で参加することを決議され聖化大会のために多額の献金をしてくださいました。しかもEPA聖会の主要プログラムであった関係諸教団の神学校の参加もそっくり引き継ぐことになり、聖化大会は大いに祝福されました。今でもそうですが、特に神学生合同の合唱は圧巻で、賛美そのものの素晴らしさは言うに及ばず、ホーリネスを標榜する神学生がこんなにも多くいたの

主講師 ジム・ハリマン博士のプロフィール

ジム・ハリマン博士は、宣教師の子どもとしてカリフォルニアで誕生、ラテン・アメリカ的な文化背景で育ちました。アズベリー大学(歴史学・学士)、アズベリー神学校(神学博士)を卒業後、パメラ夫人と共に、ワールド・ゴスペル・ミッション(WGM)に入り、パラグアイへの宣教師として、同国の貧民アスンシオンで伝道・教会活動に従事されました。教員としての傍手は、アズベリー大学在学中、メソジスト福音教会で受けられました。2005年12月、ケンタッキー州・ルイスビルでの同バプテスト神学大学において、旧約聖書における博士号を取得されました。

聖書のホーリネスを生涯的なメッセージとして感じておられる博士は、フランス・アズベリー伝道協会に加入し、同協会のラテン・アメリカ伝道主事としてアメリカ国内および南米諸国において聖会・伝道会巡回宣教をしておられます。また伝道の傍ら、インディアン・ウェスレアン大学非常勤講師として教えておられます。ハリマン博士はパメラ夫人、ご長女ダイアナさん(14歳)、ご長男アイザック君(10歳)と共に、インディアン州・ニューアルパニーに在住しておられます。博士のお兄さんであるニューバート・ハリマン博士は、WGM総規として世界の宣教のために労しておられます。今回の聖化大会のためには、同家族連中のパメラ夫人に替わって、ご長女ダイアナさんが付き添いとて来日されます。

大会

回 関東聖化大会
06年
月15日(日)-17日(火)
スレアン・ホーリネス教団
橋教会
ム・ハリマン博士
「よい望みに生きる」

●第11回 山形聖化大会
●日時 2006年9月18日(月)
●会場 基督兄弟団米沢教会
●講師 飯塚俊雄師
(日本イエス・キリスト教団
東京若枝教会)

●第18回 宮城聖化大会
●日時 2006年9月18日(月)
●会場 日本基督教団
仙台青葉荘教会
●講師 黒木安信師
(ウェスレアン・ホーリネス教団
浅草橋教会)

日本聖化交友

■チャーチ・オブ・ゴッド瀬谷グレイ

かと改めて知らされ、彼らが卒業のあかつきには日本、そして世界のいたるところにホーリネスの宣教者として派遣されて行くであろうことを想い、心が躍る思いを致しました。

こうして聖化大会は五回を数えるに及んだのですが、日本聖化交友会として関東(東京・淀橋教会)一極に限った開催地では全国に向かつて発信するホーリネスの宣言には限界があることを覚え、一九九二年三月の総会で今後は地区別に聖化大会を開催することが決議され、冒頭に記したように順次各地区に聖化交友会が起これ、日本聖化交友会の二翼のもとにそれぞれが聖化の宣言を展開して今日に至っています。ある地区ではすでに存在していた聖潔派の運動に聖化大会を取り込んだ形で開催しており、またある地域では聖潔派でない教会の加入に配慮した形を取っており、それぞれの地域のニーズに従い自主的に、そして各地域の特色ある大会になっています。また出版活動としては本会発足の当初から機関紙「聖化」を発行して本誌をもって第四〇号を数えるに至っています。巻頭のページには各教団の指導的な先生方のホーリネス・メッセージ、中ページではその年々の主講師の

聖会メッセージの要約などが載っており聖化の宣言に努めております。

関東聖化大会にかぎって述べれば二〇〇一年の第十六回大会から青年部を発足させて若い層に何としてでもホーリネスの恵みを継承して欲しいとの願いをもって取り組んでおります。また聖化大会を通して直接献身に導かれた多くの兄弟が起こされたことも大きな祝福でした。

日本聖化交友会の今後の展望

日本聖化交友会は先にも述べたように現在九つの地区で聖化大会を開催していますが、日本全体から見るとまだまだ開催地の少なさを覚えます。北海道では道東道北の地区、本州では奥羽地区、信越地区、山陰地区、四国の各地区、九州の南部と沖縄などです。それぞれの地域教会の自主性を尊重しなければなりません、私たちの祈りは日本のあらゆる地域で教派を超えて聖化の宣言に取り組む大会や研鑽の時が持たれるようになることです。このために日本聖化交友会では新しい地域で新たに聖化交友会を建て上げるための助けとなるように助成金の積み立てを行っています。新しい地域からホーリネスの宣言の

ために立ち上がる群々が起こされるようにと祈っております。

エゼキエルは神殿の敷居の下から流れ出た水がやがて大河となり、多くの人々に繁栄と祝福をもたらすという幻を見ています。エゼキエル書四七章九節には「この川の流れる所はどこでも、そこに群がるあらゆる生物は生き、非常に多くの魚がいるようになる。この水が入ると、その水が良くなるからである。この川が入る所では、すべてのものが生きるとなる。」とあります。現在殆どの地域で開催している聖化大会は二年に一回の一種集中型で終わっているのが実情です。このような形で行われている聖化大会であっても意味あるものとするためには、ホーリネスの恵みが各教会の中にも流れ入り、働いているのちのあるものとされなければならぬと考えます。「この川がはいる所では、すべてのものが生きる」とあるように、各地域の聖化大会から発信されるホーリネス・メッセージの川は教会を経てすべての地域の魂を生かし、聖霊による喜びに満ちたものとなるという幻を私たちは見たいのです。聖化交友会がこのような幻の実現のために今後ともさらに祝福されることを祈ってやみません。今年の聖化大会を心から期待しつつ。

◆今秋開催の全国各地の聖

●第17回 九州聖化大会

- 日時 2006年11月8日(木)
- 会場 日本ナザレン教団 熊本教会
- 講師 斎藤清次師 (日本ナザレン教団那覇教会)

●岡山・備前聖化大会

- 日時 2006年10月22日(日)
- 会場 日本イエス・キリスト教団 香登教会
- 講師 ジム・ハリマン博士

●第51回 ジョン・ウェスレーに学ぶ会

- 日時 2006年10月20日(金)
- 会場 日本ナザレン教団 大阪桃谷教会
- 講師 ジム・ハリマン博士

●第19回 東海聖化大会

- 日時 2006年10月19日(木)
- 会場 インマヌエル名古屋教会 福音センター
- 講師 ジム・ハリマン博士

数年前のJHA全国協議会昼食時に全国から集われた各委員で学びの時を持ちました。講義は飯塚俊雄師で、とても好評でした。それで抜粋の形ですが、多くの方々にとってよき示唆に富んだものでありますので、ここに掲載いたします。

聖霊による効果的な説教とは

説教には、味わい (taste) という風味 (flavor) というものが必要である。それでは説教の独特な味わいとは何でしょう。

パウロの説教には、力と聖霊と強い確信がありました。私は長年、リース先生のものを読んで来ましたので、先生の教えてくださった深い味わいあるメッセージの秘訣を申し上げます。力ある説教の要素です。

1. 重荷 (Burden) です。

主の重荷のメッセージ。どうしても語らずに折れぬ託言をエゼキエルやエミヤは神から受けました。その結果、骨の中に火が燃えるようで、語らずにおれない。忍ぶに疲れて絶え難しうめきました。これが重荷の要素です。私たちは本当に語らねばならないことをしっかり語っているか自己吟味をすべきです。

2. 出会いとか対決の要素です。(Encounter)

説教とは、グループを対象にした個人カウンセリングであって、それ以外ではない。聖書の説教は、常に真理と誤謬との闘争の最前線で語るので。パウロがそうでした。この世の悪に対して真理はどう関わるのか、選民イスラエルに対して、異邦人クリスチャンはどのような関係にあるのかを明確に述べています。これが対決の要素です。

会衆の中に偏見を持っている人があれば、その偏見を扱わなければなりません。生きることに疲れている人がいれば、それに触れねばなりません。入試に失敗したり、失恋したり、伴侶の不貞に悩んでいる人がいれば、そのためのメッセージが必要です。聴衆が、うちの牧師は自分の問題をよくわかっていてくれると思うようではいけません。

宗教多元化の時代、この道はいつか来た道と思わせる復古調の国家主義、思想的雑居がまかり通る「無限抱擁性」の日本の土壌に福音を根付かせるためには、対決の要素が不可欠です。

3. 伝達 (communication) の要素です。

グローバルの今日、コミュニケーションの問題がどんなに重要かは周知の事実です。だが、みことばをもって人の魂の深奥に届くには、どのような説教であるべきでしょう。この問題について、ポーロ・リースは、70年代に「Christianity Today」に「Avoiding the abstract」抽象的な話では駄目です、と次のように言っています。説教がだらけたり、心に届かなかったりするの、きまってる話か抽象的になってしまった時です。何も抽象化はいつも駄目だというのはない。教室などでいいとしても講壇では問題です。どうすれば抽象化を避けることができるか。

1. 聖書的であれ。Be biblical

(これはもっと聖書の人物を生きた生きと登場させよ、ということです。)

聖書時代の世界は、外面的なあれこれについて言えば、私たちが口にする宇宙飛行やロケットの秒読みとか、ビタミン、コレステロールとは別世界です。しかし、そこにはアブラムのような心の広い男たちがいます。欲たかりのロトたち、目から鼻に抜けるヤコブたち、絶情一筋のヨセフたち、落ち込んでいるエリヤたち、アヒトベルのようなわざ師、熱血漢のダビデたち。平然と裏切るユダのやから、心引かれるヨハネたち、勇敢なる冒険男のバロロたち、多種多様な人物がうようよしています。そして、高貴な生涯に変えられた彼らは、極悪な人間らを見つめながら、何と言っていますか。「もし恵みがなかったら、俺も、私たちもあの人ようになっていただろう」と。

聖書にはアイデアが満載しています。思想があり、計画があり、理想がある。火を呼びだしたエリヤも我と同じ人なり、です。だから聖書の世界の知恵の林に入っていくなら、どんな説教者でも具体的な生身の人間たち、興味深い神のみわざの恵みの世界を耕すことができるのです。

2. 想像力を働かせなさい。Be imagination

これは糸の切れた風船のように、ただ空想の世界に漂うものではありません。私たち説教者にとって、この想像力は知的に神秘的に、浮遊しているアイデアをイメージに上げる凝固剤なのです。例えばヤコブは愛する者たちをみな渡らせた後、満天の星のもと、夜の闇の中で独りずくまる。かたわらにはヤボクのせせらぎの音が聞こえる。例えば、放蕩息子が帰ってくる。豚臭い体にボロをさげて。父親が長いロープを引きずりながら走る。Wisdom works but love runs! そ

れを「あわれみと救し」という一本調子の変わりばえのないことばで言うだけでいいのだろうか。

ほら、きこえませんか。今、あなたのために天国ではたを織っている音が聞こえませんか。父を忘れ、家を忘れてはや幾年。うろつき汚れてはた放蕩児に着せるための新しい着物、神がまとわけてくださる着物。突然、和解と恵みの世界が大波のように押し寄せて来たあの夜を忘れないと。

何はさておき、私の方法は、古代の状況 (setting) の中からテキスト (text) を取り出し、私たちの生活の中に移しかえるのです。私のテキストは、いわば思慮深いまなざし (thoughtful eye) と瞑想する心 (meditative mind)、一度、二度村の小道をぶらぶら往き来します。そうするうちに村里の空気になじみ、懐かしいものになってくるのです。

ここに見るのは、明らかに想像力を働かせて、説教を身近な日常性のもっと仕上げる作業です。(homiletical harnessing of the imagination) その効力たるや、だらけた雰囲気かひきしまり、興味関心が湧き、重い空気がさわやかにになります。

出来たものを洗練されたことばで語る時、人の心の奥にまで届くのです。それと教会そなえつけの聖歌が手垢で汚れていませんか。せつかくのコミュニケーションを台無しにします。礼拝全体のプログラムがコミュニケーションなのです。

聖書の深みに分け入れと言いました。聖書こそ、生身の人間がそれぞれの時代に神に造り変えられた恵みの記録であり、証人群が今日も信仰によって語りかけている。そこに具体性があり、身近な例話がある。想像力を働かせよ、と言いました。それこそ、私たちの知性と神秘的洞察力が一つのハッキリした形となる凝固剤なのだ。

3. 言語感覚を磨け。Be word-conscious!

語感のシャープな人の文章を読む。Charles Jeffersonは言います。ことばにはムード、気分がある。人間と同じように。うやうやしくひざまずくことば、温かくやさしく愛情に満ちたことば。開放的で気さくでいそいそとして上げることば。笑い、叫び、賛美することば。ことばには人間の経験をつたふり盛り込んだ、豊かで喜怒哀楽が詰まっているのだから、会衆の心をつかもうとするなら、ことばつかいに注意しなさい。香水がふりかけられたアラバスターのボックスをあけるように。

自分の書いたものに目を通し、厳密に剪定しなさい。生き生きとしているか。麻痺しているか、きらめいているか、トロンとしているか。具体的であるか、抽象的であるか。それぞれの状況が生きています。ことばが簡潔で明解です。cleanとかCoolとか、かざこそという音からの連想。主イエスの用いられたことばも耳にやさしく、目に美しく、心に響くものでした。丘の上の町、地の塩、一本のローソクの明るさ、ゆらめくともし皿、樹の下、種まく人の動作、売られている五羽のすずめ。(Picture in Words) 絵ことばです。美的感覚がシャープです。これ以上ないうまさ、器用さで、写真の一枚のように現場を切りとって見せてくれます。誰もが抽象的なことばにうんざりしています。具体的であること、ビチビチ生きのいいことばで話したいです。

4. 情熱 (passion)

パウロは心狂えるなら神のためと言い、福音のためならどんなことでもすると気道の言葉を発しました。心燃える男でした。情熱とは、魂のためと思う愛が、福音の確信と結ばれた感情です。

5. 期待 (Expectancy)

イエス・キリストの福音を語る時、私たちは今ここで永遠にかかわる結果が起こること期待しなければなりません。いつでも決心をつのれと言うのではありませんが、聖霊によって結果を求めるように導かれたら決断を促さない。

最後に加藤常昭師のことばを紹介します。

何を話しても、結局、いつのまにか説教と説教者の問題になってしまうのです。教会とは、礼拝する信徒の集団だからです。キリストの復活と御霊の降臨を告げるペテロの説教に始まった教会は、このキリストを礼拝する生活に生きることを最上の喜びとして来ました。そして、説教を聴くことで礼拝は成り立つのです。

説教とは説教を作り、きかせることでしょうか?

いいえ。説教とは、説教者を造り上げ、見せることです。

事務局・総務だより

▶ 聖化第40号をお届けします。全国各地開催の聖化大会の祝福をお祈りいたします。

▶ さる3月の全国評議員の全国評議員会で日本聖化交友会会長として、黒木安信師が就任されました。